午後１時30分　開始

【秘書広報課長補佐】　定刻の時間となりましたので、ただいまから平成25年１月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、２項目について事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表からお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の３番目、フリーの質疑応答へ進行したいと思っております。なお、終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくお願いをいたします。

【市長】　みなさん、新年あけましておめでとうございます。昨年はたいへんお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申しあげたいと存じます。大変お天気のいい幕開けでございました。ことしは景気も含めて敦賀にとって何か少しよくなるんじゃないかなという期待を込めて新年を迎えたところでございます。敦賀市には多くの課題がございますので、これからもしっかりと頑張っていきたいなというふうに思っているところであります。

まず、発表項目であります。

出初め式でありますけれども、例年行っております。日時等につきましてはここに記載のとおりでございまして、お天気がいいと分列行進等々も非常によいのですけれども、お天気のほうばかりは何とも申し上げられないところであります。

次に、文化財の火災防御訓練でありまして、１月26日は文化財防火デーでございます。そういうことで文化財を守るための訓練ということでありまして、ことしは西福寺で１月26日に開催をいたします。実はかつて西福寺の山門が火事で焼けてしまいまして今コンクリートでできているわけでありますけれども、非常にもったいないことをした、そういう経緯もございますし、各地でも文化財が燃えてしまったという例もございます。そういうことのないように備えていきたいと思っております。

以上２件でございます。

【秘書広報課長補佐】　それでは、ただいま発表いたしました２つの項目につきましてご質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社さんございますでしょうか。

【記者】　明けましておめでとうございます。

火災防御訓練なんですけれども、これ西福寺でやるのは今回初めてなんでしょうか。

【市長】　西福寺だけで６回目でございます。

【秘書広報課長補佐】　それでは、各社にお伺いをしたいと思いますが、発表項目につきましてご質問等ございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】　先ほどの文化財火災防御訓練の件なんですけれども、去年と違うところと、あと京都のほうでよくやられているんですけれども、文化財のいわゆる優先順位を決めてやるようなやり方があると思うんですけれども、そういったことはやるのかやらないのか、その点をお伺いできますか。

【敦賀消防署長】　特に例年とは変わっていません。文化財の搬出は地元の方にやってもらいまして、京都とはちょっと違います。

【秘書広報課長補佐】　それでは、次第の３番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。

これも幹事社さんのほうからありましたらよろしくお願いいたします。

【記者】　市長にまずお伺いしたいんですけれども、昨年１年をとりあえず振り返っていただいてどのような年だったかというのと、あとことしはどのような年にされていくおつもりであるのかお聞かせください。

【市長】　昨年は、やはり私ども立地地域に非常に関係ございます原子力のいろんなこと、例えば最初は民主党政権の中で原子力の依存度といいますか、どのぐらいの率ということでエネ環会議等もございまして、最初は少し残していくのかなということもございましたけれども、もう30年代にはゼロにするというふうなことにもなりまして、非常に私も立地地域として困惑をしたこともございます。また規制委員会、これはしっかりやっていただ

いておるというふうに思いますけれども、今までは活断層ではないというところに原子力発電所が立地したわけでございますけれども、今調査しますとこれは活断層であるというふうな報告なども出まして、まだその詳細な説明も受けていないというふうな現状でございます。そういう意味では非常にそういう原子力行政に少し振り回されてしまったんじゃないかなと感じる年でもございました。

ただ、新幹線の着工、また中池見のラムサール条約登録等々、明るい話題もございましたし、そういう意味では、諸問題はございましたけれども、いいにつけ、悪いにつけ、いろんなことがあった年だなというふうに思っています。

ことしは、先ほど言いましたように非常にいい幕開けでございました。あのような天気のお正月というのはなかなか私どもの地方には実はないわけであります。太平洋側へ行けばごく当たり前のお天気でありますけれども、そういう意味では非常にいい幕開けでありましたし、何となくいい年になるんじゃないかなとまず期待を持っております。

それと、年末に政権交代がございまして安倍新政権が誕生いたしました。原子力等々につきましても前の政権とは少し違った形になってくるように感じておりまして、そういう意味では少し期待感もあるというふうに思っております。そういう意味で、これからいろんな難問ございますけれども、しっかりと取り組んでいって敦賀のまちの発展に資するようにしっかり頑張っていきたいなというふうに思っております。

【記者】　それと、先ほどの市民交流会のほうの市長の年頭挨拶の中で、安倍政権の話を出されて、新増設の話にも触れられて、新しいものをつくっていく必要性というのを国とか関係機関のほうに訴えていきたいというふうなこともおっしゃっていたと思うんですけれども、新しいものというのはいわゆる３・４号機のことなんでしょうか。それともまた原電２号機の、例えばリプレースなんかも視野に入れていらっしゃるとか、そういうことはあるんでしょうか。

【市長】　２号機につきましては、まだその最終的な結論が出ておりません。仮にやはり最終決定で破砕帯が連動する、あるいは活断層であるというふうなことになりますと、法律的にそういうところに建ててはいけないということでありますから、そのまま運転を継続していくということは極めて厳しい状況になるんじゃないかなというふうに思います。

ただ、エネルギーをしっかり確保していくという観点、これは私の今までの持論でありますけれども、ある程度ベストミックスの一つとして原子力を位置づけております。新しい政権のほうも、やはり原子力というのは重要な電源であるというふうな安倍総理のお話、また茂木経産大臣の話等々を考えますと安全確認をして再稼働するということであります。これは全国的な話でありますが、私どもの地域の２号機、１号機というのはまだ非常に不透明な状況にあり、２号機はまだいろいろ検討していくことはあると思いますが、やはり３・４号機というものを、高木先生もおっしゃっておりましたけれども、３年、10年という言葉じゃなくて早く着工するような形、当然その前提には法律といいますか、例えば今の３・４号機の下などもしっかり調査をして、決してその上にはそういう重要なものは建てないという形に設計変更してでも早く取りかかっていい発電所をつくっていく。このことがまた私ども地域にとっての一つの経済の活性化にもなりますし、今、原子力に取り組もうという皆さん方にとっても非常に暗い状況でありますけれども、やはりいい先行きも出ましょうし、また原子力を勉強していこうという若い人たちの励みにもなってくることだというふうに思いますので、そういう意味では早くそういうご判断をいただきたいなというふうに思っております。

【記者】　先ほど市長は、敦賀にいろいろな多くの課題があるとおっしゃいましたけれども、その中でも特にことしの一番大きな課題は何で、それに対してどのように取り組んでいきたいというふうに考えられているか、もう一度ちょっとお聞かせください。

【市長】　いろいろ大きいものがありまして、どれが大きいかと言われるとなかなか難しいんですけれども、やはり看護大学をしっかりと立ち上げていくということが、これも大きな課題の一つだというふうに思っておりまして、これからの地域医療を担う医療人をしっかりと育てていくという意味、また、文科省のいろんな動きなどもございまして、これからどういうことになっていくかなということも注視をしなくちゃなりませんが、私どもとすれば議会のご承認を得て、また看護大学をつくるということも決まっておりますので、

その立ち上げをしっかりやっていきたいというふうに思っております。
　それと、新幹線につきましてはまだ先ではありますけれども、いろいろと取り組まなくちゃならんという課題もございます。受け皿、そして新しい駅舎も建ってまいりますので、そういうこれから新幹線が来るに当たってのしっかりとした受け皿づくり、これも大きな課題だというふうに思っております。
　また、港の利用もおかげさまでふえておりますが、やはりこれからもしっかりポートセールスをやっていく。それとあわせて、先ほどの原子力の問題につきましても、これは非常に重要でございますのでしっかりと対応していきたいというふうに思っております。
　そういうことでいろんな重要なことがございますし、基本的には第６次総合計画に基づいたまちづくりを進めていくということが基本中の基本だというふうに認識をしながら、先ほど言いました諸問題、まだまだほかにも当然あるわけでございますけれども、しっかり取り組んでいきたいというふうに思っています。
【記者】　その中の原子力のお話なんですけれども、市長おっしゃったように敦賀２号機で結論が出れば非常にその運転が難しくなるということで、敦賀市にとってかなり影響が大きなお話かと思うんですけれども、今月の末にも原子力規制委員会が何らかの判断を示した場合には、敦賀市としてまずどのような対応を検討していくという考えになるんでしょうか。
【市長】　今月末ですからあと20日少しぐらいの期間しかないと思います。今、会社のほうで公開質問状という形で出していただいていますから、それに対するやはり説明責任は規制委員会にあるというふうに思いますので、そのあたりの対応についてはこれから少し見ていく必要があるというふうに思います。結論はどのような形になるか私どもまだわかりませんので、それはまた出てから考えたいと思います。
【秘書広報課長補佐】　それでは、各社ご質問ございましたら挙手をお願いいたします。
【記者】　今の質問にちょっとかかわってくると思うんですけれども、その説明責任ついて、大飯３・４号機の再稼働のときは国が主導して住民説明会を開いたと思います。今回どんな対応となる、どんな結論が出るにせよ、そういった住民説明会とか、あと市長は外国の研究者にも見てもらうとか、そういったことをいろいろとおっしゃっていると思うんですけれども、どういったことを考えていらっしゃいますか。
【市長】　これは政権が決めていく話だというふうに思っております。そういう意味である程度政治判断的な分野もあるというふうに思いますし、規制委員会はその運転等々について提言はしましょうけれども、決定権というのはやはり最終的には政府が持っておりますので、そのあたりどのように判断されるか。例えば確率的な問題、要するに、確かに浦底断層があって何万年に一度動くということですが、原子力発電所というのはこれから新しくできたところで50年ぐらいのものですし、今現在あるところはそう長くはない。この時期に一体どのような確率でどのようなものが起きるかということなどもやはり研究する必要があります。規制委員会は規制委員会としての役割を果たしながら、地震学等々、またいろんな皆さん方で総合的にそれを判断して、それは最終的には政治判断につながるというふうに思いますので。規制委員会は規制委員会としての判断を出される、そしてまた政治は政治の中でそういうものを総合的に判断する、その中でいろんな皆さん方にやはり入っていただいて総合的に決めていくというのが政治の役割だというふうに思っておりますので、そういうことは必ず行われるんじゃないかなというふうに私は思っております。
　そういう意味で規制委員会は規制委員会の役割を果たしておりますので、私はごく自然の形だというふうに思っております。ただ、本当はもっと幅広く、先ほど言いましたように規制委員会の先生方も人間でありますので、やはり福島のようなことを目の当たりにし、同じ国民としていろんな憂いを持っておりますから、そういう感情のない方で優秀な皆さん方を入れてそういうものを判断されるというのも大事かなというふうに今思っておるところであります。可能性があると言われますと、世の中全てのものに可能性があるわけでありますので、その分野だけ捉えて言うんじゃなくて、やはりもっと科学的にしっかりとした判断をする。だからそういう説明をぜひお願いしたいということで、私も前から言っておりますように、規制委員会としてもやはりそういう説明をする機会をぜひ持つべきだというふうに思っています。

【記者】　原子力政策でかなり民主党政権には振り回されたというふうなお話がさっきちょっとあったと思うんですが、自民党政権にかわって今後原子力政策も随時見直していくという方針の中で、市長としては何を一番先に見直してほしいのか、取り組んでほしいのかというのはありますでしょうか。増設とか40年廃炉とかいろんな問題があると思うんですが。
【市長】　まず、やはり30年代にゼロということの見直しがあるんじゃないかなというふうに思います。そういう中で今、安倍政権はやはり経済最優先ということで何としてでもこの状況を脱却しようという強い思いがございます。そのためには、エネルギーというものをしっかり確保しませんと私はできないというふうに思っておりますので、そういう政権が取り組む第一の一つの分野としてエネルギーをしっかり確保していく。そしてこれはいろんな国同士の諸問題もありますから、そういう意味では、日本としてエネルギーセキュリティを含めた分野を考えていけば、やはりこの原子力というのは、逆に言えば避けて通れない分野の一つでございますので、そういうものをしっかりやっていくものだというふうに思っています。そういう発言も昨今の総理、また経産大臣、また幹事長を初め関係の皆さん方もおっしゃっております。これは前の政権でありますけれども、30年代にはゼロにするんだと、閣議決定みたいなものをされておる事項もございます。やはりそういうものをこの新しい内閣の中で、なるべく３年から、また10年というふうなお話が出ていましたけれども、それだけ悠長な時間は私はないというふうに思います。そういう意味ではなるべく早くそういうふうな見直しを行っていただいたらいいんじゃないかなというふうに思います。
【記者】　安倍政権になって、今言った30年代の原発稼働ゼロという方針の見直しと、あと茂木さんも安倍首相も言っているんだと思うんですけれども、新増設に関しては原則しないというのが民主党政権での原則だったかと思うんですけれども、それも見直すという方針の発言が結構相次いでいるんですけれども、その新増設の見直しについてどう感じておられるんですか。
【市長】　これは先ほど言いましたように、政権としてしっかりと経済を立て直していく。また、「日本を、取り戻す。」というふうなキャッチフレーズで今回選挙を戦っておられましたけれども、そういう意味でやはり経済の強い、またしっかりとした日本をつくっていく上でエネルギーを確保するということは、これはもう基本中の基本でございますので、そういう意味では、私どもとすればごく自然な中でそのように発言をされてエネルギーを確保するんだという中で話をしていただいたんじゃないかなというふうに思っております。
　そういう意味と、やはり原子力に対する心配というのもまだあることは事実でございますので、そういう意味では新しい形の、たしか総理でしたか、福島とは違う形のもっと安全なものをというお話をされておられましたので、そういうものをつくっていっていただけるもんだというふうに私は確信していますし、敦賀の３・４号機につきましてはほとんど敷地造成はでき上がっておりますので、あとは上に建てていくだけ。ただ、いろんな審査があるというふうに思います。先ほど言いましたように、破砕帯がもし真下にあるようではそれを少しずらしたりする必要もありましょうし、そういういろんな対策などもとっていかなくてはなりませんので少し時間がかかるというふうに思います。ですから早くそういう結論を出されて、この新増設についても、古いものよりも新しいもののほうが、これはいいに決まっているというふうに思いますので、ちゃんと安全性が確認できたものは当然これ再稼働していくべきでありますけれども、なかなかそのあたりが不明確なところであれば、やはり早急にリプレース、また新増設という形で原子力を維持していく体制をつくってほしいというふうに私は思います。
【記者】　確認なんですけれども、40年を超えている１号機、それから耐震安全性で活断層の可能性が指摘されている２号機、これからつくるかどうかという３・４号機。２号機について結論が出ていないということの認識のようですけれども、非常に１・２号機が厳しい状況に置かれていることを考えると、１・２号機の置きかえとして３・４号機を位置づけるという考え方もあるのかなと思うんですけれども、今のところどうですか。
【市長】　現時点ではそういうことは思っておりませんけれども、１号機については、こ

れは当然廃炉に向かうため、３・４号機ということは、これはもともとの前提でございました。ただ、２号機についてはまた別の話でありますし、最終的に本当にどうなるんだ、そして規制委員会の判断、そして政治的な判断がどうなるんだということがわかってから、それはまた考えるべきだと思います。
【記者】　先ほど、国の審査の件であるとか原子力規制庁、規制委員会のあり方についてお話をされています。事故の教訓として、前の保安院であるとか審査のあり方であるとかそういうものは、事業者であるとか、それから政治の介入というか、政治のとりこ、そういうもののとりこになっていて適切な客観的な安全審査が行われなかったことが今回の事故の遠因になったという反省点が、国会事故調でもいろんな事故調査会でも出ています。その上で原子力規制委員会ができているわけですけれども、昨今の状況を見ると、先ほど市長もおっしゃったように原子力規制委員会に物を申すような状況になっています。尊重はするとは言いながら、規制委員会のやり方に不信感を抱かれているようなことが多いんですけれども、改めて市長から市長のお言葉で原子力規制委員会に対する姿勢というのをもう一度聞かせていただいてよろしいでしょうか。
【市長】　もちろん規制委員会は、先ほどから何度も言っておりますけれども、規制委員会の役割を果たしているというふうに思います。ただ、市民に対する説明、また利用者、やはり質問状が出たらそれに対するしっかりとしたお答えをするというのは当たり前のことでありますので、そういうものは経てほしいなと思うだけでありまして、そういう点以外は専門家の先生であります。ただ、先ほど言いましたように人間ですから、規制委員会の先生であってもロボットじゃない。人間でありますので感情的なものが入らないとも限りませんから、もっといろんな皆さん方を入れて審査するのは私は決して変なことじゃないというふうに思っています。
　ただ、今、規制委員会として立ち上がっておりますので、先ほども言いました市民、また地域住民に対する説明なり会社に対する説明なり、そういうものは果たしていただきたいということでありまして、それ以上のことは何も望みません。
【記者】　今おっしゃったその感情的なものというのはどのような感情だというふうに理解すればよろしいでしょう。
【市長】　可能性があるというと、先ほど言いましたようにあると思います。全てに可能性というのは否定できないわけでありますので、じゃ、そのあたりについてまず説明を受けてからまたそういう話はしたいなと思います。まだそういう規制委員会としての説明を受けていませんから、また受けてから。今は私どもはしてくださいというふうに規制委員会へ行きまして要望してまいりましたので、そして規制委員会としてはしっかりさせていただきますという話でありましたから、それを聞いてからまたコメントさせていただきます。
【記者】　委員会とか、それから専門家の方々が原子力をとめるがために、とめたいと思って今審査をしているのではないかと、そういう客観的でない感情的なものが入っているという意味ではないですね。
【市長】　とめたいじゃなくて、やはりあれだけの震災、同じ国民として現状を目の当たりにした場合の感情でありますので、とめたいとかとめたくないとかという意味ではございません。
【記者】　市長に伺いたいんですけれども、せんだって東京のほうに行かれて要望書とか意見書を規制委員会のほうに出されたと思うんですけれども、その際に地元の意見を聞いてくれというような、地元に説明してくれというような要望があったと思うんですけれども、それは何らかの決定をするために説明してほしいということなのか、その決定をする前に事前に地元に説明してほしいという、そういう機会を設けてほしいということなのか、どっちなんでしょうか。それを教えてください。
【市長】　恐らくそれは、こういう方向で規制委員会としてはこういう結論になりましたという説明でいいと思います。結論を出す前に説明を受けましても、私どもは専門家じゃございませんのでなかなかどういうふうにどこをということはわかりません。要するに、規制委員会としてこういうことでこういうふうな結論としましたと、これはこう見ると何年前に動いて今度も動く可能性がありますよと、私どもにわかりやすく説明があるという

ふうに思うんですけれども、そういうものをしてくださいということでありますので、当然１月の末には何か出されるということでございますから、できれば出たら速やかに説明をしていただきたいと思っています。
【記者】　事前了解が欲しいというわけじゃなくて、あくまで事後報告を欲しいと。
【市長】　そうです。了解する力量が私どもにはございません。
【記者】　１・２号機の運転再開が非常に厳しくて、３・４号機が仮に着工できるとしてもまだまだ紆余曲折があると思うんですけれども、また運転停止が長期化する中で敦賀の経済は非常に疲弊している状態が続いていると思うんですけれども、さらにこの状況が長く続いていくということが予想される中で経済の対策というのはどのように考えていらっしゃるでしょうか。
【市長】　これはいつも言っておりますように、いろんな支援の方法はあるというふうに思います。それと全国にいろんな発電所がございますし、いろんな連携もとる必要があるというふうに思います。それと福島のほうに対するいろんな支援などもありますから、例えば、こちらで原子力に携わっていた方で、今はどうしても仕事が少ないという皆さん方で連携をとりながら向こうに行って働いていただくとか、やはり仕事をしていただくようなことを考えませんと、支援支援と言いましても、ただお金を借りていただくとかそれだけではなかなか難しいというふうに思います。そういうことも含めて、また新たな産業などの誘致、これもなかなか思うように新しい工場がどんどん来るということも難しいわけでありますので、私ども市行政としてまた商工会議所等と連携をしながらできる限りの支援をしたいなというふうに思います。具体的にはいろんな対応策はあるというふうに思いますけれども、今、これこうこうということはすぐお話しできませんけれども。
　それと、やはり違う分野での活性化、今働いていらっしゃる方を除いても、波及的に経済的に困っている方もたくさんいらっしゃいます。例えば宿泊関係、飲食関係、いろんなところを含めて疲弊している状態でございますので、そういう皆さん方にはまた別の分野の支援の仕方もあるというふうに思いますので、そういうものを含めて、観光でありますとかいろんなできる限りそういうものに対して取り組んでいきたいなというふうに思っております。
【記者】　ちょっと話題を変えて、中池見と新幹線のことでちょっとお伺いしたいんですが、どちらも昨年かなり市として前進したもので、さらにどちらも市にとって非常に重要なものだと思うんですが、２つの関係としては、新幹線のルートの上に中池見の山の一部がかかっていて地下水に影響を与えるんじゃないかという懸念があると思うんです。機構のほうは環境調査はするけれどもルートは変えるつもりはないということで、ちょっと極端な言い方をすると環境よりもルート優先という姿勢だと思うんですが、市長のスタンスとしては、仮に環境に影響があるとすればルート変更も仕方がないと思うのか、そのあたり、ちょっと年頭なのでもう一度そのスタンスをお伺いできないでしょうか。
【市長】　新幹線というのは極力直線で走るのがいいということであれば、やはりどうしても敦賀の駅に接続するということでありますので、今のルートというのは恐らくベストというか、ベターなのかもわかりませんけれども、そういうルートでいろんな調査もやっていくということであります。確かにある程度の影響というのはあるかもしれませんけれども、影響の程度というものもあるというふうに思いますから、そのあたりをまずしっかり調査をしていただく必要があります。
　また、ＮＰＯ法人中池見ねっとの皆さん方からも要望などもいただいておりまして、そこに通じる道なども、非常にぎりぎりのところに入ってくるとそれでは作業にも行けないというふうなこともございまして、そういうあたりを少し上げたり、ルート自体はそう変わりませんけれども、あと最終的な微調整ぐらいはできるんじゃないかなというふうに思いますので、極力影響の出ないように、影響がゼロというのはこれも非常に難しいかもしれませんけれども、極力影響がゼロになるような形で設計なり工事施工の仕方などもやはり研究していただいて、極力影響の出ないような形で新幹線が通ってくることを願っていますし、そういうふうな声はまた引き続いてお願いをしていきたいなというふうに思います。
【記者】　新年なので、ちょっと下品な質問をさせていただきます。

統一地方選、衆院選、それから７月の参院選と３年連続で大きな選挙が続きます。参院選に対する市長の思いというのがもしあれば、下品な質問と言ったのは、その身の振り方も含めて何か所感があればですね……。
【市長】　この７月にある参議院選挙ですか。
【記者】　はい。
【市長】　出られる方は一生懸命頑張っていただいて、国のために出られたら頑張っていただきたいと思います。
【秘書広報課長補佐】　それでは、これをもちまして１月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。
【市長】　ありがとうございました。

午後２時７分　終了